

TGR TEAM ZENT CERUMO

2022 AUTOBACS SUPER GT Report

FUJIMAKI GROUP FUJI GT 100Lap RACE

第4戦 富士スピードウェイ

ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆ 8月7日（日） RACE

決勝結果 リタイア

事前にレースでのペナルティストップは決まっているものの、好感触を得て予選4番手という好位置につけることができた TGR TEAM ZENT CERUMO。迎えた8月7日（日）の決勝レースは、100周という長丁場。ペナルティを跳ね返す走りをみせるべく、チームは決勝日に臨んだ。



レース直前のウォームアップ走行こそ曇り空のもとドライコンディションで行われたが、その直後から富士スピードウェイはコース上の一部に雨が舞った。メインストレート上に車両が並んだ後も雨が舞いコースが濡れたが、幸いにし雨は上がり、午後2時からのスタート時の気温は26度、路面温度は31度というコンディションのもと、ひさびさに復活した1周のパレードラップ、そして路面が一度濡れたことから、フォーメーションラップが2周に増やされ、いよいよ決勝レースの火ぶたが切られた。



ZENT CERUMO GR Supra のスタートドライバーを務めたのは、スタート前に201戦を祝った立川祐路だ。まずはスタート直後4番手につけると、ポールポジションスタートから少しずつ順位を落としていた #19 GR Supra に迫り、5周目にはテール・トゥ・ノ

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

ADVICS

HERSEE

WAKOS

asics

YAMAHA

トヨタ東自大

SHOWA
BRAKE FLUID

YAMAHA

TGR TEAM ZENT CERUMO

ーズのバトルに持ち込んでいく。しかしその直後、立川は ZENT CERUMO GR Supra をピットレーンに向けた。3 基目のエンジン使用、モノコック交換にともなう 10 秒のペナルティストップをこなすためだ。

当然、これで ZENT CERUMO GR Supra はライバルたちから 1 分近いギャップを作られてしまうことになるが、ここから立川は怒涛の追い上げをスタートさせる。ライバルたちが集団のなかで走るなか、ZENT CERUMO GR Supra は GT300 車両もないクリアなスペースで戻ることができ、トップグループ同様 1 分 30~31 秒台のラップで周回を重ねていった。



立川の好走はその後も続き、GT500 の下位集団を視界に捉えるところまで追い上げると、34 周を終えピットインし石浦宏明に交代する。ZENT CERUMO GR Supra のフィーリングは良好で、石浦はピットアウト後 14 番手へ。さらにその視界に 13 番手を走る #64 NSX-GT を捉えた。

43 周目、石浦の ZENT CERUMO GR Supra は #64 NSX-GT のテールにつくと、オーバーテイクを仕掛けていく。ZENT CERUMO GR Supra の方が圧倒的にペースが良く、最終コーナーを立ち上がったところで #64 NSX-GT はバトルをあきらめ、進路を譲るようなポジションをとった。しかしその直後、石浦が踏み込んだスロットルペダルがバツンと反応を示さなくなってしまった。



力を失った ZENT CERUMO GR Supra だが、メインストレート上でピットロード入口はもう過ぎようとするタイミングだった。しかし同じ富士スピードウェイで行われた第 2 戦では、ストレートでトラブルに見舞われた車両が大きなクラッシュの引き金にもなっていた。瞬時にそれを思い出した石浦は、ホワイトラインを敢えてカットしピットロードへ。石浦はコントロールタワー下で ZENT CERUMO GR Supra を停止させた。

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

ADVICS

HERSHEL

WAKOS

asics

YAMAHA

トヨタ東自大

SHOWA
BRAKE FLUID

YAMAHA

TGR TEAM ZENT CERUMO

石浦のもとには TGR TEAM ZENT CERUMO のクルーが駆けつけ、急いでピットに戻しトラブルの究明と修復が行われた。結果は電気制御系のトラブル。一度修復し、チェックのためにコースインしたものの、ZENT CERUMO GR Supra は再度ピットに戻され、リタイア届けが出されることになってしまった。

電気系のトラブルは予測や対策もしづらいが、TGR TEAM ZENT CERUMO にとっては非常に悔しいレースとなってしまった。しかし、この週末にみせたスピード、そしてペナルティというハンデに立ち向かった“過程”は、これまでの苦戦にわずかな光明を与えるものとなった。第5戦鈴鹿はもうすぐ月末にやってくる。今度こそ結果を手に入れるべく、チームは前を向いた。



ドライバー／石浦宏明

「序盤の立川選手のスティントでは、トップグループと同じペースで走ってくれていましたし、最後尾に追いつける状況だったので、自分も良いペースで抜いていきたいと思っていました。アウトラップからすぐに前に追いつけましたし、ライバルたちよりも速いペースをみせることができました。前に行く#64 NSX-GT に追いつくことができたのですが、その瞬間にスロットルがバチンと閉じる感触があって。他チームの迷惑になってもいけないのですぐに避け、その後チェックのためにコースに戻りましたが、レースを終えることになってしまいました。あのまま走っていればポイントを獲れた感触はありましたし、ファンの皆さんからも追い上げを期待する声がありました。残念ながらまたもトラブルに見舞われてしまい、自分たちの悔しさもありますが、言い訳できないくらいレースを落としてしまっています。応援してくださっている皆さんやスポンサーの皆さんに申し訳ない気持ちです。クルマの速さはあるので、次戦取り戻したいです」



ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

ADVICS

HERSHEL

WAKOS

asics

YAMAHA

トヨタ東大

SHOWA
BRAKE FLUID

YAMAHA

TGR TEAM ZENT CERUMO

田中耕太郎監督

「レース前半から良いスピードをみせられ、その点については非常にポジティブでした。ペナルティストップがあったのですが、ちょうど GT300 の集団の前に入ることができると思ったのですぐに呼び戻し、その後はトップグループと同じペースで走ることができました。最初のピットストップの後も、石浦選手がガンガン攻めてくれましたが、結果的に電気制御系のトラブルに見舞われてしまいました。非常に残念な結果となりましたが、レースの内容としてはかなり良いものでした。もちろんやることはたくさんありますが、速さも獲得できつつあります。レースストラテジーも途中まで良い判断ができていました。結果は残念でしたが、次戦以降に繋がる週末になったと思っています」



ZENT

**GR TOYOTA
GAZOO
Racing**

BRIDGESTONE

**PMU
RACING PADS**

ADVICS

HERSHEL

WAKOS

asics

Amis

トヨタ東自大

**SHOWA
BRAKE FLUID**

YAMAGUCHI

TGR TEAM ZENT CERUMO

決勝結果

Rank	Car No.	CarName	Lap	Diff
1	37	KeePer TOM'S GR Supra	99	
2	12	CALSONIC IMPUL Z	99	7.542
3	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	99	12.863
4	36	au TOM'S GR Supra	99	15.822
5	8	ARTA NSX-GT	99	41.978
6	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	99	45.334
7	14	ENEOS X PRIME GR Supra	99	47.184
8	100	STANLEY NSX-GT	99	1'08.814
9	19	WedsSport ADVAN GR Supra	99	1'24.628
10	17	Astemo NSX-GT	98	1Lap
11	64	Modulo NSX-GT	98	1Lap
12	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	98	1Lap
13	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	98	1Lap
14	23	MOTUL AUTECH Z	89	10Lap
※1	38	ZENT CERUMO GR Supra	44	45Lap

※1 CarNo.38 ペナルティストップ 10 秒「シャシー・エンジン交換」

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

ADVICS

HERSEL

WAKOS

asics

YAMAHA

トヨタ東自大

SHOWA
BRAKE FLUID

YAMAHA

TGR TEAM ZENT CERUMO

ポイントランキング

Rank	Car No.	CarName	Point
1	37	KeePer TOM'S GR Supra	31
2	14	ENEOS X PRIME GR Supra	30
3	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	26
4	12	CALSONIC IMPUL Z	24.5
5	100	STANLEY NSX-GT	23
6	36	au TOM'S GR Supra	21.5
7	8	ARTA NSX-GT	21
8	17	Astemo NSX-GT	19
9	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	17.5
10	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	16
11	23	MOTUL AUTECH Z	15
12	19	WedsSport ADVAN GR Supra	13.5
13	38	ZENT CERUMO GR Supra	8
14	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	0.5
15	64	Modulo NSX-GT	0

